



この世の旅の あけくれに さびしいいのちを なげくとき
南無阿弥陀仏となえれば しんらんさまは よりそって
わたしの手をとり あゆまれる



「しんらんさま」より

総代会・世話方会

「生かされている」

存仁寺責任役員 横山仁司

新年明けましておめでとうございます。門信徒の皆さまには、新しい年をどのようにお迎えになられましたか？ 「一年の計は元旦にあり」と言われます。

健康でありたい。と願うのは誰しもが願うことあります。しかし、人生を全うして浄土へ赴く。これは避けて通れない現実と直面した時冷静に「孤独」との闘いに勝ることが出来るか？と思う昨今です。昨年の聴聞の機会にも教わったことですが、何度も説法でもお聞きしたのですが、未だに自分も心の底から理解をしてない反省から今一度、年の始めの言葉として記述し理解を深めたいと思います。

「独生独死独去独來」(どくしょう、どくし、どっこ、どくらい)この言葉は、仏説無量寿經の一節ですが、人間は一人で生まれ一人でこの世を去るそして孤独である」とお釈迦様は説かれました。しかし、浄土真宗は「一人じゃないよ・・・阿弥陀様がいつもおそばには居てくださる。去る時も決して一人では無いんだよ・・・」と悟りを導いて下さるのです。私達、門徒は現在生かされている人間としてこのような教えを後世に伝えていかなければならぬのです。一人ひとりが聴聞を通じて学び、精進して、日々感謝の気持ちを忘れることがなければ必ず永遠に伝導されていくことでしょう。お寺の護寺運営経費、若い層のお寺離れ、世話方、総代の高齢化など課題は山積しておりますが、果敢にチャレンジして課題解決を図ることこそが私達の先祖さまへの最大のご供養になることを確信し今日も「合掌」とともに「恩徳讚」を唱えたいと思います。



仏教婦人会

新しい年のはじめにご挨拶申し上げます。



数々の行事にもご協力くださいまして御礼申し上げます。悩みや苦しみが、喜びや楽しみに転換された時、お念佛称えて明るいさわやかな微笑をもたらしてくださいました。仏教の道は、阿弥陀如来様が御導きになられる大道でした。楽しく学ばさせていただき有りがとうございます。皆様方のご多幸を心からお念じ申し上げます。

合掌 会長 鈴木由記子

仏教壮年会

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えて、健康と安全を祈願すると共に、今年も昨年同様皆様のお力を貸して、仏教壮年会奉仕活動、一日研修等、より一層の向上と出会いを大切に、共にあゆみたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。 合掌



会長 吉井教生

門徒推進員会 明けまして おめでとうございます。過ぎ去りし日は二度と戻っては来ませんが「嬉しかった事」「悲しかった事」「寂しい思いをした事」等、私達の日常生活はその繰り返しの中で嘗まっていますが、その多くをそれなりに受け止めて、今、ここに元気で新年の喜びを「分かち合う」幸せ・・・、なんとすばらしい事でしょう。毎日の生活そのものは大きな変化もなく、自分なりに「前向きに生きる」をもっとうに日送りをさせて頂いている「つもり」でいますが、人様との付き合いの中で、発言に失敗があったり、行動に行き違いがあったりと自己反省しきりです。いずれにしても人様に迷惑や心配をかけながら、あらゆる自然界の恩恵によって「生かされている自分」を知り、一層の自覚を持ってまた一年、そして感謝、報恩の一念であります。合掌 会長 保地万千子



無量寿会 あけまして おめでとうございます。昨年は、存仁寺無量寿会に多くの皆様がご参加くださいましてありがとうございました。例会、花まつり、研修会、報恩講法要、新年会、追悼法要、総会など、さまざまな行事を通して、ご協力をいただきながら、たくさんのご縁に遇わせていただきました。今年もまた、お元気でお一人お一人の笑顔がたえない一年でありますように。合掌



会長 丸橋美優喜

■誰も助けては呉れない
一生の内に何回転ぶの
転倒の様子を只見て居る他人
何事も無い様に起き上がる
痛さを見せずに起き上がる
転ぶ人に手を差し伸べよう
人生の試練と納得する
これからも転ぶだろうと思う
心の転びはもう要らないよ

■痛たた、よいしょっと
今までに、何回転んだことか
数知れない程の痛い大転び
その都度強く起き上がった
笑える転びなど一度も無い

七転び八起

朝食前に玄関の除雪を終えて、ふうっと一息ついて、今年一年を振り返った時に、私自身の人生は、激動のスクリーンを見るが如きでした。一言でいうならば、七転び八起きの言葉が当てはまるのではないかと考えさせられます。戦後の苦しい時代を経験し、実社会では、会社の上司との軋轢に逢い、何度も不条理な扱いを受け、関連会社へ飛ばされ、どん底に落とされました。それでも何とか這い上がり生きてきました。ところで、人生を振り返り思ふ事は、どんなことが有つても、転ぶ人を作つてはいけない、見捨ててはいけない、転んだ人が、その後に、どれほど苦しい思いで人生を生きるかを考えて欲しい、暖かい手を差し伸べるべきだとつくづく考えさせられます。新年を迎えるに当たり、自分に言い聞かせる七転び八起でした。 北海道 大島義勝さん



余市：ニッカーウヰスキー工場
(マッサンを訪ねて)
平成二十八年 元旦
初春 大信や
夢つばき

西尾市都篠惣重さん
暖かいお正月ですね。
皆さんお変わりございませんか、お元氣でいら
つしゃいますか。くれぐれもお大事にご相続。な
んまんだぶ、なまんだぶ

元旦や 家族の笑顔に 福来たる
信心の一歩の軽ろし 初詣
賽銭の 沈む神泉 水澄めり
千両を 活けて整う 奥座敷
法苑の 静寂を彩る 寒椿
初雀 垣根に遊び 来たりけり
念珠掌に 善女とならん 報恩講
余生いま 急がず送れず 赤トンボ
初春や 黒き柱に 初暦
去年今年 賀状が繋ぐ 緊かな
佛前や 淨土の妻に 初会話
喜寿越えて 植え来し木々の 姿みる
『速よ逃げな!!』 耳に残りて七十年
野田山口玉照

